

登録番号 第 10331 号

タチガレン[®]液剤

特長：
 ●1成分で苗立枯病、ムレ苗を的確に防ぎます。
 ●根の生育促進効果で、健苗が得られるため、水ストレス、除草剤による薬害の影響を受けにくくなります。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・30.0%	包装	100ml×60 500ml×20
性状	黄褐色液体	有効年限	4年
毒性	普通物 [*]	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

2023年2月22日付内容

作物名	適用病虫害名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサ ゾールを含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	500～ 1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 500mL	は種時 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	3回以内 (移植前の 土壌混和は 1回以内、 移植前の土壌灌注 及び灌注は 合計2回以内)
	砂壤土、高温、低温又は高 密度は種苗における水稻用 除草剤起因の生育抑制軽減	500倍		移植5日前～ 移植前日	1回	灌注	
	ごま葉枯病		は種時		土壌 灌注		
	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5L) 1箱当り 1L	は種時 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	
ごま葉枯病		は種時		1回	土壌 灌注		
稲(折衷 苗代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌)	500倍	1L/m ²	は種直後 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	
稲(畑苗 代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌)	1000倍	3L/m ²	は種直後 又は 発芽後	2回 以内	土壌 灌注 又は 灌注	
	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進			は種 直後	1回	土壌 灌注	

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサ ゾールを含む農薬の 総使用回数
キャベツ	ヒシム腐敗病	1000 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約3.0～4.0L) 当り0.5L	出芽時 ～育苗期	3回 以内	土壌 灌注	3回以内
ナス	バクテリア萎凋病	1000 倍	250mL/株	定植時	1回	株元 灌注	1回
すいか	苗立枯病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種 直後	1回	苗床 灌注	2回以内 (育苗土壌への混和 は1回以内、苗床へ の灌注は1回以内)
きゅうり	苗立枯病(ファリウム菌) 苗立枯病(ヒシム菌)	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種 直後	3回 以内	土壌 灌注	3回以内
メロン	苗立枯病(ヒシム菌)	500 倍	3L/m ²	は種時	1回	全面土 壌灌注	1回
ほうれん そう	立枯病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種時	1回	土壌 灌注	1回
		1500～ 3000 倍	9L/m ²				
		50～100 倍	300mL/m ²	は種前		全面散 布後土 壌混和	
okra	苗立枯病(ヒシム菌)	500～ 1000 倍	50～200mL/株	は種時～ 発芽初期	2回 以内	植穴又 は株元 灌注	2回以内
さやいん げん	白絹病	500 倍	1L/m ²	収穫14日前 まで	3回 以内	土壌 灌注	3回以内
さやえん どう	根腐病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種後及び生 育期 但し、は種後 1～2か月後 まで	3回 以内	は種穴 又は株 元に土 壌灌注	3回以内
実えん どう	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及び生 育期 但し、は種後 1～2か月後 まで	3回 以内	は種穴 又は株 元に土 壌灌注	3回以内

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサ ゾールを含む農薬の 総使用回数
未成熟そ らまめ	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及び生 育期 但し、収穫 30 日前まで	3 回 以内	は種穴 又は株 元に土 壌灌注	3 回以内
てんさい	苗立枯病	500～ 1000 倍	ペーパーポット 1 冊当たり 1L	は種時～生育 初期 但し、収穫 120 日前まで	3 回 以内	灌注	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以 内、育苗土壌への混 和は 1 回以内、灌注 は 3 回以内)
			3L/m ²				
みずな	立枯病	500 倍	3L/m ²	は種時	1 回	土壌 灌注	1 回
みぶな	立枯病	1000 倍	3L/m ²	は種時	1 回	土壌 灌注	1 回
みつば	根腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで ただし、 伏せ込み栽培 は伏せ込み前 まで	1 回	散布	1 回
いちご	苗の発根促進 活着促進	1000 倍	-	挿し芽 採取時	1 回	30 分 間挿し 芽浸漬	2 回以内 (挿し芽採取時の浸 漬処理は 1 回以内、 挿し芽時の土壌灌注 は 1 回以内)
			1.5L/育苗培養 土 5L	挿し芽時		土壌 灌注	
たばこ	舞病	1000 倍	100mL/株	移植時 及び 大土寄時	2 回 以内	株元 灌注	2 回以内
カーネーション	立枯病	500 倍	3L/m ²	定植時 及び 活着後	3 回 以内	土壌 灌注	3 回以内
アリス	白絹病	1000～ 2000 倍	3L/m ²	定植時 及び 生育期	6 回 以内	土壌 灌注	6 回以内
きく	発根促進	1000 倍	5～10L/m ²	挿し芽直後	1 回	土壌 灌注	1 回
林木 (苗木)	立枯病	500～ 1000 倍	3L/m ²	は種覆土 直後	1 回	苗床全 面灌注	1 回
西洋芝 (バントグ ラス)	赤焼病	500～ 1000 倍	2L/m ²	発病 初期	4 回 以内	散布	6 回以内
	ピシム病	250～ 500 倍	0.5L/m ²				

使用上の注意事項

- (1) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
- (2) 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
 - 1) 育苗中の苗立枯病のまん延防止には発芽期以降に追加灌注すること。
 - 2) ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用すること。
 - 3) 砂壌土、高温（最高気温 30℃以上）、低温（日平均 15℃以下）又は高密度は種苗における水稲用除草剤起因の生育抑制軽減は、除草剤分類（RAC コード）2 又は 15 の有効成分を含む水稲用除草剤で効果を確認している。
- (3) 本剤をキャベツに使用する場合は、使用量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害（生育抑制）を生じやすいので、所定の使用液量、濃度を必ず守ること。
- (4) 本剤をオクラに使用する場合は、希釈液を乾燥した土壤に灌注すると薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前には十分な灌水を行うこと。
- (5) 本剤をカーネーション立枯病防除に使用する場合は、定植時に所定希釈液を 1 m²当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壤灌注すること。さらに活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理を行なうこと。
- (6) アイリスの白絹病防除に使用する場合は定植時に所定濃度の希釈液を 1 m²当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壤灌注し、その後 20～30 日間隔で 1～2 回灌注処理すること。
- (7) さやえんどうの根ぐされ病防除に使用する場合は、発生後の灌注は効果がないので、予防的には播種後 1 週間以内に所定希釈液を 1 m²当り 3L 灌注し、更に 1～2 か月後にかけて 1～2 回株元灌注処理すること。
- (8) 空容器はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、薬液調製時及び使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。